



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主 確定日	3月31日、9月30日 その他必要あるときは あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会	毎年6月に開催
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-232-711(フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (http://www.hokkanholdings.co.jp/)に 掲載いたします。ただし、事故その他やむを得 ない事由により電子公告をすることができな いときは、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続き
につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会
社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証
券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託
銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては
は、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記
特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせくだ
さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたしま
す。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支
払いいたします。



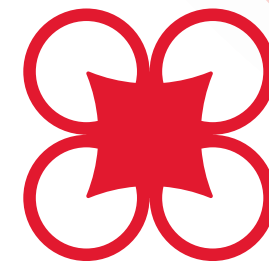
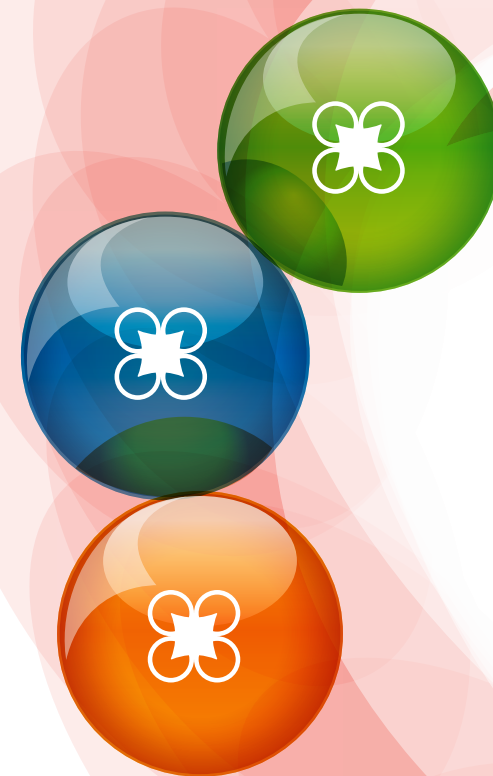
株主優待のお知らせ

毎年3月31日(基準日)現在の株主名簿に記載された株主様に対し、
当社グループの容器に入った缶詰を年1回、以下のとおり贈呈いたし
ます。

贈呈基準

所有株式数	ご優待内容
1,000株 以上 5,000株 未満	2,000円 相当の 缶詰詰合せ 
5,000株 以上 10,000株 未満	3,000円 相当の 缶詰詰合せ 
10,000株 以上	5,000円 相当の 缶詰詰合せ 

ホッカンホールディングス株式会社



HOKKAN HOLDINGS

株主の皆様へ

HOKKAN REPORT

第88期 株主通信 Vol.15

2012年4月1日～2013年3月31日



HOKKAN HOLDINGS

ホッカンホールディングス株式会社

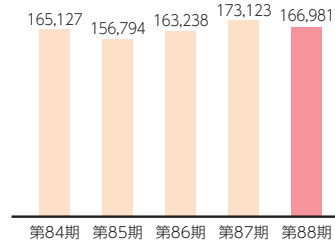
〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
TEL03-3213-5111 (代表)

URL: <http://www.hokkanholdings.co.jp/>

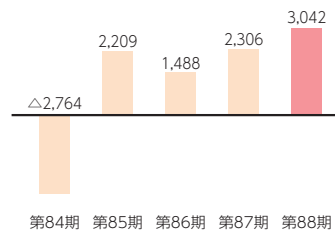


この冊子は環境への配慮のため、FSC森林認証紙と
ベジタブルオイルインキを使用しています。

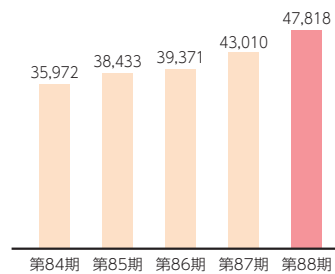
売上高 (単位: 百万円)



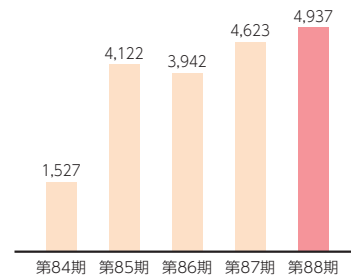
当期純利益 (単位: 百万円)



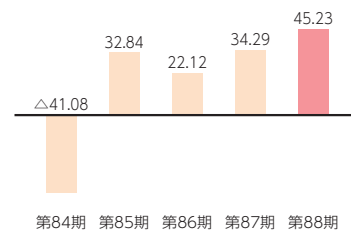
純資産 (単位: 百万円)



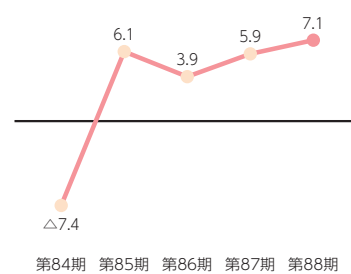
営業利益 (単位: 百万円)



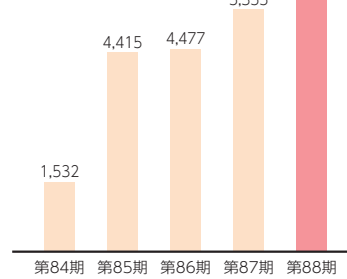
1株当たり当期純利益 (単位: 円)



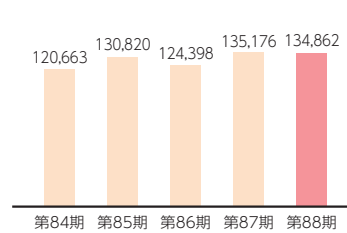
ROE (単位: %)



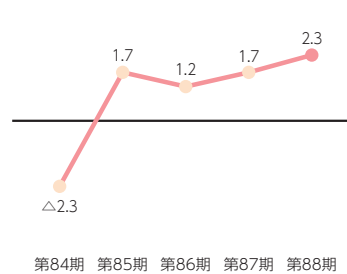
経常利益 (単位: 百万円)



総資産 (単位: 百万円)



ROA (単位: %)



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第88期(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の営業概況ならびに計算書類につき、ご報告申し上げます。

事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、前年度に引き続き海外経済の低迷や円高の影響により企業収益が圧迫されるなど、厳しい状況で推移しておりましたが、昨年末より円安が進み、また株価も続伸するなど企業の業況感も一部で改善の動きが見られる状況となりました。

当連結会計年度における清涼飲料業界の状況につきましては、梅雨明け以降の猛暑と、その後、長期間続いた残暑により、果実飲料や炭酸飲料が好調に推移し、また、ミネラルウォーターも順調に販売されるなど、業界全体では前年を若干上回る結果となりました。カテゴリー別にみますと、まず、炭酸飲料は特定保健用食品であるコーラ飲料が順調に販売を伸ばし、また、果汁入り炭酸飲料等につきましても好調に推移いたしました。果実飲料では、特にトマト飲料につきまして、マスコミによる紹介等によりブームになるなど前年を上回る結果となりました。ミネラルウォーターにつきましては防災意識の向上なども重なり、好調な需要を維持しました。一方、スポーツ飲料や機能性飲料につきましては、周辺カテゴリーへの分散傾向があり、前年を下回る結果となりました。なお、容器別では、スチール缶製品は昨年と同様に前年割れとなりましたものの、ペットボトル製品につきましては新製品が順調でありましたため、前年を上回る結



代表取締役社長

工藤 常史

代表取締役会長

永井 勝己

果となりました。

食品缶詰業界の状況につきましては、水産缶詰では夏場の猛暑により海水温が上昇したため、サバやサンマなどの水揚げが減少し減産となり、さらに、昨年末まで続いた円高により、海外からの製品輸入が増加したため国内生産は減少いたしました。また、農産缶詰・水産缶詰ともに東日本大震災による復興特需の反動により、食品メーカー各社が過剰製品在庫の圧縮を実施したため国内生産は減産となり、食品缶詰業界全体では前年を下回る結果となりました。

事業別の概況

容器事業

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒー分野において積極的な営業活動が続けてまいりましたものの、コンビニエンスストアやカフェ等で展開されているカップ式ドリップコーヒーの影響等もありましたため前年割れの販売となり、飲料用スチール空缶全体では前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、主要販売品目のうち農産缶詰では、主力のスイートコーン缶が順調に販売されるなど、農産缶詰全体においては前年を上回る結果となりました。

水産缶詰につきましては、業界の動向と同様にイワシ・サバ・サンマを中心とした青物製品が、夏場の猛暑・残暑の影響により水揚げが減少したことや、東日本大震災により被災した充填先の復興の遅れ等も重なり、水産缶詰全体では前年を下回る販売となりました。以上の結果により、食品缶詰用空缶全体では前年を下回る結果となりました。

つぎにプラスチック容器では、飲料用ペットボトル分野におきまして、小型ペットボトルが夏場の猛暑・残暑により需要が大きく増加し、また、果汁製品や冬場の加温商品用ボトルが好調に推移いたしましたため、前年を上回る販売となりました。

一方、無菌充填向けプリフォーム(ボトル成形前の中間製品)につきましては、積極的な営業活動が続けてまいりましたが、前年を下回る結果となりました。

食品用ペットボトルにつきましては、醤油分野を中心に販売が減少したため、前年を下回る結果となりました。

一般成形品につきましては、化粧品分野において、春先からの新製品の受注により順調に販売を伸ばしたものの、園芸品分野が前年を下回る販売となり、また、バッグインボックスにつきましても、一昨年に緊急援助物資として急増しました



水袋が平年並みに落ち着きましたため、一般成形品全体では前年を下回る結果となりました。

エアゾール用空缶につきましては、殺虫剤関連が順調に推移いたしましたものの、消臭剤などの家庭用品や燃料ボンベ缶が減少したため、エアゾール用空缶全体では前年を下回る販売となりました。また、美術缶につきましては、依然として他の包材への移行の動きがありますが、震災以降保存容器としての缶製品が見直されており、当社グループでは前年を上回る販売となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は、496億91百万円と前年度に比べ6.2%の減少となりました。

充填事業

充填事業につきましては、4月以降、一昨年の震災特需や夏場の電力制限に備えた前倒し生産等の反動により、前年度を下回る販売が続いておりましたが、夏場の猛暑と残暑が続いた影響により7月以降は大きく増産となり、また、冬場につきましても缶コーヒーや加温販売用ペットボトル製品を順調に受注するなど、充填事業全体では前年を若干上回る販売となりました。

容器別にみますと、まず缶製品はリシール缶(ボトル缶)で果汁製品の受注が減少いたしましたものの、コーヒー製品で増加したため、リシール缶全体では前年を上回りました。しかしながら、通常缶によるコーヒー製品や炭酸製品につきましては、客先の販売不振により受注が減少したため、缶製品全

体では前年を下回る販売となりました。

ペットボトル製品につきましては、ホットパック用大型および小型ペットボトル製品が東日本地区において麦茶・緑茶・ウーロン茶等で増産となりましたものの、西日本地区における販売が減少したことにより、結果としては前年を若干下回る販売となりました。しかしながら、無菌充填システムによるアセプティック製品につきましては、茶系飲料等の受注が大きく増加し、また、当社グループにおいて生産性の向上について重点的に取り組んだ結果、前年を上回る販売となりました。

以上の結果、充填事業における販売数量につきましては過去最高に達しましたものの、一部原材料支給価格の影響もありましたため、充填事業全体の売上高は、1,155億10百万円と前年度に比べ2.3%の減少となりました。

機械製作事業

機械製作部門につきましては、カタログ製品である液体小袋充填機の販売や、海外向けの販売等を積極的に行い、また、下期においてグループ内の製缶ラインを受注いたしましたが、機械製作部門全体では前年割れの結果となりました。

エンジニアリング部門におきましては、グループ内における各種工事等の受注がありましたものの、一昨年から東日本大震災後における復旧工事等の特需が一服するなど、エンジニアリング部門全体では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、機械製作事業全体の売上高は、15億87百万円と前年度に比べ19.1%の減少となりました。

最後に、インドネシアに設立いたしましたPT.HOKKAN INDONESIA(ホッカン・インドネシア社)は、昨年12月より商業生産を開始いたしました。同社は、インドネシアにおいて受託充填事業を営んでおり、プリフォーム製造からボトル生産、内容物の充填まで、当社グループによるTPS(トータル・パッケージング・システム)事業として、無菌充填システムを採用しております。なお、初回製造品目のミルク入りコーヒー飲料(250ml)は、市場から好評を得ております。

以上により、当連結会計年度における連結総売上高は1,669億81百万円と前年度比3.5%の減少となりましたものの、経常利益は59億64百万円(前年度比11.4%増)、当期純利益は30億42百万円(前年度比31.9%増)となりました。

対処すべき課題

来期のわが国経済の見通しにつきましては、安倍政権による各種経済対策の効果もあり、国内需要は底堅く推移し、また、海外経済の成長率も次第に高まっていくことが想定されますことから、緩やかな回復基調で進むものと思われます。

このような状況のなか、本年は当社グループの中期5カ年経営計画「ACTIVE-5」の折り返し年度にあたります。当社グループは最終年度の目標達成に向け、過去2年間の取り組み成果を今一度検証し、国内事業においては新たな事業展開や基盤の再構築を行ってまいります。

海外事業に関しましては、マレーシア、ベトナムに続きインドネシアにおいても昨年末より商業生産を開始いたしました。また、本年4月には、当社の主力事業であります金属容器の製造販売の開始を目的として、タイに新会社を設立いたしました。今後、これらの海外グループ各社の有機的連携を積極的に推し進め、海外事業の拡大を図ってまいります。そのうえで、中期5カ年経営計画の基本戦略であります①TPS(トータル・パッケージング・システム)の推進 ②海外展開の推進 ③環境対応型企業への推進 ④新規事業の早期具現化(M&A) ⑤グループ経営の強化 ⑥情報システムの整備 の6項目について継続的に推進し、「既存事業の持続的成長」と「新たな事業展開への挑戦」に向けて邁進していく所存であります。また、当社は、当社グループにおいて企業の社会的責任を果たすべく、コーポレートガバナンスの更なる充実を図り、グループ企業の透明性と健全性を引き続き強化してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ホッカンホールディングスはグループ事業会社全体の力を統合し、さらに高いレベルの「ものづくり力」を追求します。

当社は持株会社として、各事業を強化するとともに、グループ企業とのアライアンスの発展を図ってまいります。そして、“最大より最高”をモットーに、品質と価格の両面を併せ持つ「ものづくり力」を高めてまいります。



HOKKAN HOLDINGS

充填

大手ブランドの飲料を空缶やペットボトルに充填する受託充填企業です。調合から物流までを請け負う総合力を持っています。

株式会社日本キャンパック

株式会社西日本キャンパック
日本キャンパック・マレーシア
日本キャンパック・ベトナム

「キャンパックアクアブルー」は、良質の水に恵まれた工場を持つ同社のメリットから、品質と潤いを表しています。



機械製作

北海製罐株式会社や株式会社日本キャンパックで使用する超精密度の金型から製造機械、総合一般の製造ラインまで提供する機械メーカーです。

オーエスマシナリー株式会社

KE・OSマシナリー株式会社

「オーエスプレシジョンオレンジ」は、超精密度を追求する同社の各種金型と各種製造機械の安全性を表しています。



容器製造／販売

食品用、飲料用などの空缶、ペットボトルなどのプラスチック容器の開発、生産、販売など幅広くおこなっています。

北海製罐株式会社

昭和製器株式会社
日東製器株式会社
東都成型株式会社
ホッカン・インドネシア
ホッカン・タイ (2013年4月設立)

「ホッカンエバーグリーン」は、同社のルーツである北海道の大地を象徴する緑、永遠の若さ、生命力を表しています。



PT. HOKKAN INDONESIA 商業生産開始

昨年12月21日、PT. HOKKAN INDONESIA (ホッカン・インドネシア社) は商業生産を開始致しました。初回品目は無菌充填による初の250ml容量PETコーヒードリンクで、販売も好調です。今後も現地のニーズに迅速に応えてまいります。



(全景)

ホッカン・インドネシア社の概要

商号	PT. HOKKAN INDONESIA (ホッカン・インドネシア社)	
所在地	インドネシア共和国 西ジャワ州 ボゴール県	
設立	2011年7月	
出資比率	ホッカンホールディングスグループ	70%
	豊田通商グループ	30%
事業内容	清涼飲料用容器製造および受託充填事業	



(工場玄関)

連結貸借対照表 (要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	第88期 2013年3月31日現在	第87期 2012年3月31日現在
資産の部		
流動資産	51,663	54,132
現金及び預金	1,470	1,595
受取手形及び売掛金	33,652	34,711
電子記録債権	3,098	4,445
たな卸資産	9,729	9,186
繰延税金資産	758	768
その他	2,975	3,446
貸倒引当金	△ 20	△ 21
固定資産	83,199	81,044
有形固定資産	60,319	62,633
建物及び構築物	20,733	20,375
機械装置及び運搬具	20,044	20,766
土地	15,788	15,837
リース資産	1,037	950
建設仮勘定	2,360	4,307
その他	356	395
無形固定資産	1,404	1,140
投資その他の資産	21,474	17,270
投資有価証券	17,632	14,148
繰延税金資産	95	484
その他	3,865	2,715
貸倒引当金	△ 118	△ 77
資産合計	134,862	135,176

科 目	(単位:百万円)	
	第88期 2013年3月31日現在	第87期 2012年3月31日現在
負債の部		
流動負債	51,389	55,909
買掛金	28,754	32,636
短期借入金	12,385	14,502
リース債務	338	294
未払法人税等	1,142	1,352
賞与引当金	800	760
その他	7,968	6,362
固定負債	35,654	36,256
長期借入金	31,125	31,855
リース債務	956	841
繰延税金負債	277	129
退職給付引当金	2,296	2,421
その他	998	1,008
負債合計	87,043	92,165
純資産の部		
株主資本	42,345	39,808
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	10,750	10,750
利益剰余金	20,532	17,994
自己株式	△ 23	△ 23
その他の包括利益累計額	2,519	647
その他有価証券評価差額金	2,490	826
繰延ヘッジ損益	△ 5	△ 17
為替換算調整勘定	34	△ 161
少数株主持分	2,953	2,555
純資産合計	47,818	43,010
負債純資産合計	134,862	135,176

連結損益計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	第88期 2012年4月 1 日から 2013年3月31日まで	第87期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで
売上高	166,981	173,123
売上原価	148,770	155,601
売上総利益	18,210	17,522
販売費及び一般管理費	13,273	12,899
営業利益	4,937	4,623
営業外収益	1,810	1,465
営業外費用	783	733
経常利益	5,964	5,355
特別利益	9	96
特別損失	955	900
税金等調整前当期純利益	5,019	4,551
法人税・住民税及び事業税	2,001	1,837
法人税等調整額	△ 316	99
法人税等合計	1,684	1,937
少数株主損益調整前当期純利益	3,334	2,614
少数株主利益	292	307
当期純利益	3,042	2,306

連結株主資本等変動計算書 (要旨)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	11,086	10,750	17,994	△ 23	39,808	826	△ 17	△ 161	647	2,555	43,010
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当			△ 504		△ 504				－		△ 504
当 期 純 利 益			3,042		3,042				－		3,042
自 己 株 式 の 取 得				△ 0	△ 0				－		△ 0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					－	1,663	11	196	1,872	398	2,270
当 期 変 動 額 合 計	－	－	2,537	△ 0	2,537	1,663	11	196	1,872	398	4,808
当 期 末 残 高	11,086	10,750	20,532	△ 23	42,345	2,490	△ 5	34	2,519	2,953	47,818

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	第88期 2012年4月 1 日から 2013年3月31日まで	第87期 2011年4月 1 日から 2012年3月31日まで
営 業 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	10,314	6,883
投 資 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	△ 6,650	△ 10,375
財 務 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	△ 3,775	1,418
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 13	△ 299
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 125	△ 2,372
現金及び現金同等物の 期 首 残 高	1,595	3,968
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	1,470	1,595

会社概要

商 号 ホッカンホールディングス株式会社
HOKKAN HOLDINGS LIMITED

本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
丸の内三井ビル TEL03-3213-5111

設 立 1950 (昭和25) 年2月1日
(創立 1921 (大正10) 年10月23日)

資 本 金 110億8,652万4,995円

従 業 員 数 24名

事 業 内 容 (1) 各種空罐、容器の製造販売
(2) 清涼飲料水・酒類その他各種飲料の受託充填及び販売
(3) 各種機械の製造販売
(4) 機械器具設置工事業
(5) 倉庫業
(6) 土木・建築工事の設計、施工請負



役員

取締役会長 (代表取締役)	永 井 勝 己
取締役社長 (代表取締役)	工 藤 常 史
専務取締役	田 村 秀 行
取締役	木 村 修 二
取締役	山 崎 節 昌
取締役	池 田 孝 資
取締役	小 池 明 夫
常勤監査役	大 塩 恭 介
監査役	寺 嶋 勉
監査役	増 田 嘉 一 郎
監査役	新 名 孝 信

株式の状況

発行可能株式総数 240,000,000 株

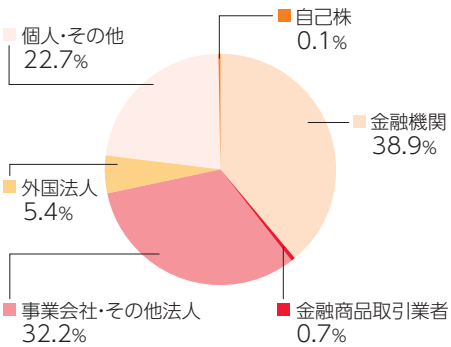
発行済株式の総数 67,346,935 株

株 主 数 5,502 名

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社トーモク	5,926	8.81
日本生命保険相互会社	3,274	4.87
株式会社みずほコーポレート銀行	3,273	4.87
ホッカンホールディングスグループ取引先持株会	2,880	4.28
株式会社メタルワン	2,267	3.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,237	3.33
農林中央金庫	2,000	2.97
東京海上日動火災保険株式会社	1,805	2.68
株式会社北海道銀行	1,765	2.62
JFEスチール株式会社	1,565	2.33

(注) 持株比率は自己株式(71,741株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、当社の事業活動や動向を紹介しております。また、この度、**英文サイト**と**個人投資家向けサイト**を開設し、**IR情報メールの配信サービス**をスタートいたしました。当社をよりご理解いただくためにも、是非アクセスしてください。

<http://www.hokkanholdings.co.jp/>

IR情報／電子公告



トップページ



英文サイト



IR情報メールの
配信サービスに
ご登録ください!

最新のニュースリリースやホームページの更新情報などを、ご登録の皆さまに電子メールにてお知らせいたします。



個人投資家向けサイト